

道教育大×内田洋行がセミナー

ICT活用 先行事例を共有

つくば市教委中村氏ら講演

【函館発】道教育大学と内田洋行は12日、道教育大学附属函館中学校で北海道限定GIGA活用セミナー「秋」を開催した。道教育大未来の学び協創研究センターの佐藤正範氏、道教育大附属函館中の郡司直孝氏、つくば市教委指導主事の中村めぐみ氏、内田洋行の須藤綾子氏の4人が講師となり、道内外の最先端のICT活用事例を紹介。パネルディスカッションでは学校、企業、行政の視点から様々な論点で議論し知見を共有した。

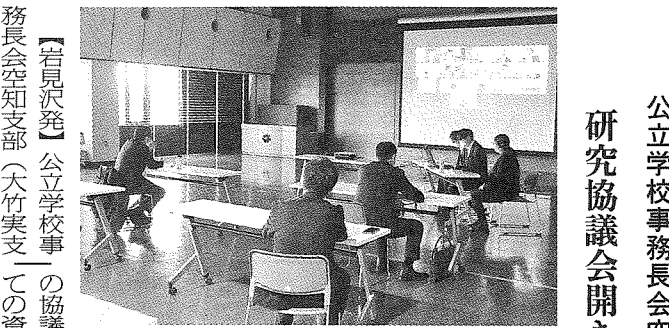


はじめに未来の学び協創「最適化と協働的な学び」と研究センターの佐藤氏が「題して講演Ⅱ写真Ⅱ。脚「アフターGIGAの個別」本、撮影、動画編集など全て子どもたち自身で取り組む映画制作など、小学校における多彩なICT活用の実践事例を示し、子どもがつくる学びへの転換を提唱した。続いて道教育大附属函館中の郡司氏が「附属函館中学校の1人1台の展開と成果」と題して講演。メールの活用や学

級日誌のデジタル化など中学校の実践を伝え、場所や時間にとらわれない「シームレスな活用」と生徒を中心とする「主体の移行」の大切さを指摘した。また、不適切な端末の使用や方法や問題への対応に関する管理権限を持たせることや情報モラルに関する各教科での指導を紹介し「問題が起きたときは生徒と話し合うチャンス。失敗をどう役立てるかを考えるさせることが大切」と伝えた。

内田洋行の須藤氏は「どうする?」話すと調査「教育データ活用」学習eポータル選定で後悔しないためのポイント」と題して講演。×クビットを使った調査実施や教育データの活用など学習eポータル選定のポイントを示し、教育委員会向けの機能や管理業務の効率化の機能を備える同社の「LIGate」を紹介した。

オンラインで参加したつくば市教委の中村氏は「1人1台端末で実現するつくばシームレス教育」と題して講演。健康状態や授業の満足度といった各種データを可視化することでよりきめ細かに子どもたちの状況を把握できる取組を伝え、確固とした自治体の教育理念のもとでデータの利活用を推進する重要性を説いた。



講演後はパネルディスカッションを実施。キャリア教育、学校間の接続、自治体における予算確保など様々な論点で意見を交わした。

円滑な学校運営へ研鑽

公立学校事務長会空知支部 研究協議会開き講話など

た。教員のICT活用に関して郡司氏は、全ての教科で活用を促すのではなく「多くの教員が関わる教育課程や健康調査、学級日誌など日常の場面で活用することが重要」と述べた。中村氏は、クラウドによる活用事例の共有など短時間で教員が高め合う体制の行った。

最後に来場者限定の情報交換会を実施。オンラインを含めて質問や名刺交換を行った。 大切な指摘。佐藤氏は「先住たちの力をそろえようとすると苦しい感じがする。苦手な部分も認め合った上で、困り感を共有することが大切」と述べた。 所管事項を説明したあと、大竹支部長があいさつ。12月を目前に多忙な時期であることに触れ「このような状況下でこそ学校運営を推進したい。悩みや分からないことなどを、きょうの情報交換と一緒に考え、乗り越えていこう」と活発な意見交換を求めた。 つぎに道教委総務政策局総務課の尾上浩司主幹が「人材育成について」と題して講話。コミュニケーション能力と心理的安全性、上川教育局の人材育成の取組について紹介した。 続いて、池上学園池上学院高校の松本弘之事務長が「通信制高校の現場について」をテーマに説明したあと、学校事務における今日的な課題について研究協議を行い、各々の知識や情報を共有。今後の学校運営に向けて資質向上を図った。

【岩見沢発】公立学校事務長会空知支部（大竹実支）の協議を通して事務長としての資質向上を図り、円滑な学校運営に資することを目的としている。 はじめに、空知教育局が